

産業廃棄物の3R戦略プラン（仮称）検討委員会（第1回）概要

1 日時 平成28年7月21日（木） 午後1時～午後3時

2 場所 京都府公館 第1会議室

3 概要

「産業廃棄物の3R戦略プラン（仮称）」検討の概要、課題、施策の方向を説明。各委員より意見聴取を行った。最終処分量を削減するための具体的な方策を検討するため、次回委員会でより詳細な現状データを示し、議論を行うこととなった。

4 内容

（1）開会

- ・委員紹介
- ・山口環境部長より挨拶

（2）議事

- ・「産業廃棄物の3R戦略プラン（仮称）の策定について」に基づき、プラン策定の趣旨、今後のスケジュールについて説明。
- ・産業廃棄物税、京都府における産業廃棄物の現状、（一社）京都府産業廃棄物3R支援センター及び他府県における産業廃棄物税の用途について説明。
- ・「産業廃棄物の3R戦略プラン（仮称）」の概要、各協議事項について説明。

5 委員から頂いた主な意見

【中小企業の意識啓発・分別促進について】

○環境対策に熱心に取り組まれている中小企業と、そうでないところに大別される。それぞれアプローチの方法を変え、施策を検討すべきではないか。（例えば、分別促進の支援は取組に熱心な企業に、それ以外の企業には啓発事業を行う等。）

【発生抑制について】

○既存のアドバイザー事業に関連して、廃棄物処理業者がアドバイザーとすることはいかがか。設計・商品開発の段階において、廃棄物処理業者からアドバイスを行うことは発生抑制の観点から効果的と考える。また、企業の分別促進についても具体的アドバイスができる。

【リサイクルの取組を評価する認定制度について】

- 業種によってリサイクルしやすい廃棄物ばかりが出てくる事業所や、どうにもならない廃棄物ばかりが出てくる業種がある。平等に判断することは困難ではないか。
- リサイクルがどれだけ進んだかではなく、リサイクルするためにどういった取組やシステムを取り入れているかを評価するのはどうか。

【工業団地を対象にした集積所の設置について】

- 工業団地のような企業が多く集まるところに着目するのは良い考えだと思うが、集積所を作ったとして、それを誰が管理するのか、manifestの運用はどうするのか等、課題が出てくると思う。また、有価物のみを集める集積所とするにしても、廃棄物と有価物の分別はどこで行うのか等、障害は多いと考える。

【リサイクル製品の販路開拓・PRの支援について】

- マーケティングの観点から言うと、社会性に共感して売れるという考え方がある。リサイクル製品開発に関するストーリーのPRを京都府で応援してはどうか。
- リサイクル製品は環境に優しいという見せ方しかしない。リサイクル製品が何の役に立つのか（エネルギー削減、雇用の創出等）を明確にして、PRを支援する方法を検討すべきではないか。開発時点から戦略立ててリサイクルを進めていくことが重要であり、その中で京都府がどのように関わっていけるかが課題と考える。
- 学生にリサイクルしたものを見せて、マーケティングをどのように進めるかコンテスト形式で考えていただくのはどうか。環境学部以外の学生にも、興味を持ってもらう機会となる。京都は大学生が多く、京都らしい取組になるのではないか。
- 現在研究室で国際学会を開催する予定。その中でリサイクル製品の展示機会を設け、製品PRの機会を創ることができるのではないか。

【排出事業者を対象とした見学ツアー】

- 忙しくて現地確認に行けない企業もあるため、ツアーを企画して時間をつくっていただき、現地確認を行う機会とするのは有意義。
- ツアーに関しては、参加者のレベルに合わせて段階的に進めるべき。日頃自分たちが排出した廃棄物がどのように処理されているのか知ってもらう程度の内容や、そこから段階を上げ、現地確認のチェックツアーを行うなど。実際に現場に行けば、分別の方法に

についても学べるのではないか。

○排出事業者と処理業者をセットにして、排出事業者から出た廃棄物が処理業者でどのように処理されているか、流れが分かるようにすると効果的。

【大学生を対象とした見学ツアー】

○学生の見学では、企業の良い面しか見られないため、リクルートの機会とするのは難しいと考える。だが、自分が企業に入って、どんな仕事ができるのか学ぶ機会になると考える。

○インターンの要素を取り込み、企業と連携した体験事業を行うのはどうか。学生の希望者を集め、事前に産業廃棄物について学んでもらう。その後、企業に派遣し、帰って来たら3Rに関する提案をしてもらう。インターンであれば参加する学生は見込めると考える。